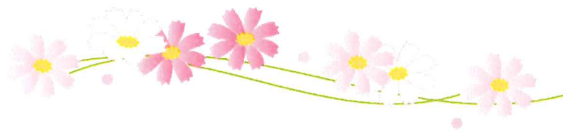


# 「小説」を読むことだけが読書なの？



南中図書館だより 10月号

あれほど暑かった日々もようやく終わりをつけて、季節は涼やかな風吹く「秋」へと変わりました。

さて、みなさんは「秋」と聞くと、何を思い浮かべるでしょうか？

「食欲の秋」(新米の季節ですね!(^^)!)・「スポーツの秋」(地区秋季新人大会もありますね。ファイト!)

「芸術の秋」(各美術館で企画展が開催されますよ!)など、さまざまな「秋」があふれています。



南中図書館のイチ押しの「秋」は、もちろん「読書の秋」!



10月27日(読書の日)から11月9日まで、「秋の読書週間」が開催されます。

後期図書委員会も、イベントを開催する予定です!

イベント内容が決まったら、館内ポスターや図書館だよりでお知らせしますので、みなさん、ぜひ参加してくださいね。

## 「読書」ってなんだろう？

南中図書館に本を借りにくる人に、よく聞かれる言葉があります。

「先生、読書用の本はどれですか？」

「読書イコール 小説を読むこと」と思い込んでいる人が多いことに、ちょっとびっくりさせられます。

みなさんのなかの「読書」というのは、どのようなイメージなのでしょう？

ここは悩んだ時にとっても頼りになる、南中図書館蔵書の辞書を調べてみましょう!

『広辞苑 第七版(岩波書店)』を引いてみると、「読書・・・書物を読むこと」とあります。

では、書物とは? 「書物・・・文字や図画などを書き、または印刷して1冊にとじたもの」だそうです。どうも、読書は「小説」や「物語」を読むことのみに限られるものではないようですね。

今年度から、朝読書の時間に「学習まんが」を読んでもOKになっています。

もし「小説」にあまり興味がないなら、伝記や歴史、科学などの「学習まんが」はいかがでしょう?

正  
解  
の  
本  
が  
?



ほかにも南中図書館には、いろいろなジャンルの書物があります。どの本も、みなさんに読んでもらうのを待っていますよ!



# 今年の秋は、日本語で「あそぼう」!

『またたび浴びたタマ』  
村上春樹／文 文藝春秋

「日本語で「あそぶ」って、よくわからないんだけど・・・」

みなさんのなかには、そう思ったひともいるかもしれませんね。  
でも、そんな難しいことじゃないですよ。

「早口ことば」・「しりとり」・「だじゃれ」・「さかさことば」など、  
みなさんも言葉をつかった「あそび」になじみがあるのではないですか。



『日本語あそび学』  
倉島節尚／監修 今人舎



『暗号学』

稲葉茂勝／著 今人舎



推理小説などに、決まった順序で言葉や文字を並びかえて秘密の伝言をする「暗号」が登場しますが、これも言葉を使った「あそび」の一種。  
日本でも昔から戦いの際などに、自分の味方だけにわかる言葉を使っていました。  
みなさんが普段よく使っている言葉も、年配の方々からすると、ひょっとしたら「暗号」に聞こえているのかもしれないね。



さて、みなさんにこの秋おすすめしたいのは、日本語の心地よいリズムを大切にした「ことばあそび」。  
1学期に、2年生のみなさんは「短歌」を、3年生のみなさんは「俳句」を学んだと思います。

「え～ 授業でやったし～ もういいって」という声が聞こえてきそうですが、南中図書館がおすすめするのは、授業とはちょっと違った方向からのアプローチです。

例えば短歌のひとつ「相聞歌(そうもんか)」。

「相聞歌」というのは、ももとは相手の消息をたずねる和歌のこと。

「元気かの～」・「心配してるんやざ～」・「連絡しての」などといった、  
相手を思う気持ちを込めて詠んだものです。

また、「相聞歌」といえば「恋愛の歌」とも言えます。

万葉集の、額田王と大海人皇子との間で読まれた歌は有名です。

「季節が」・「技法が」と難しく考えずに、  
あなたが心に想う人に対して詠んでみてくださいね。



『愛×数学×短歌』  
横山明日希／編  
河出書房新社



『ときめく心 中学生の相聞歌』  
桔梗亜紀／著 水曜社



『中学生川柳 ①～④』  
小林桂三郎／編 汐文社

俳句と同じく17文字で詠む「ことばあそび」には、川柳(せんりゅう)があります。  
「サラリーマン川柳」などは、毎年ニュースに取り上げられますね。

俳句と川柳の大きな違いは、季語を入れるといった取り決めがないこと。  
その時思ったことを詠んでみましょう!

今月の「図書館だより」冒頭のテーマも、川柳風にしてみましたよ。  
「小説を・・・」ね、簡単でしょう?

